

数時間後に異世界に強制転送される

勉強に忙しいミカちゃん。



ミカ  
HP 19  
MP 0

「コマンド」  
こうげき どうぐ  
じゅもん ~~そうび~~  
ぼうぎょ ▽にげる

ミカはゴブリンたちに拘束されてうまくにげれなかった！  
ミカはゴブリンたちに拘束されてうまくにげれなかった！  
ミカはゴブリンたちに拘束されてうまくにげれなかった！  
ミカはそうびを破壊された！  
ゴブリンたちはミカを巣に持ち帰ろうとしている...

状態異常

吊り下げ拘束

中出し

ミカ

HP 1

MP 3

ミカはゴ布林たちに中出しこげきされた！  
ミカは行動不能でうごけなかった！  
ゴ布林たちは巣へ帰った

# ゴブリン洞窟

「コマンド」

~~そうげき~~      ~~どうぐ~~

~~むゆもん~~      ~~そうび~~

~~ほうぎょ~~      ~~にげる~~

ミカ

HP 1

MP 3

状態異常

戦意喪失(特大)  
放尿

ミカは戦意喪失した...なんにもできない...

状態異常

ポルチオ絶頂  
中出し

状態異常

快樂(膣)  
恐怖反転

状態異常

肛門拡大  
快樂(膣)  
快樂(肛門)

状態異常

絶頂(持続・ポルチオ)  
絶頂(大)

状態異常

快楽(極大)  
不快感の変質状態(快楽)  
ゴブリンの快楽  
屈辱  
脱糞

状態異常

脱糞  
屈辱  
快楽(肛門)  
ゴブリンの快楽

状態異常

ゴブリンの快楽  
不快感の変質状態  
放尿  
屈辱  
快楽(極大)

ミカ

HP	1
MP	42

ミカは自ら乳首をいじめはじめた  
ミカは性欲がとまらない...  
ミカはゴブリンのいいなりになった  
ミカはクラス「ゴブリンの孕袋」に転職した

GAME Over ...

異世界に強制転送された  
ミカちゃん②

ミカ
HP 19
MP 2K



ミカはリスポンした  
ミカは記憶を失った

遭難して3日…学校で勉強してたのに…  
気づいたら場所もわからない草原にいた…  
私…早く勉強しないとイケないのに…  
ここどこなの？お腹も空いた…

助けて……誰か……

状態異常

疲労  
飢餓



# 救助されました。

私は空腹で気絶していた所を  
助けていただいたみたいで...  
モンスター狩りをされている方  
の自宅で看病してくれた...  
その方が  
「この辺りはゴブリンの縄張り  
があるから女の子一人であつ  
くのは非常に危険」とのこと...

モンスター狩り？ゴブリン??

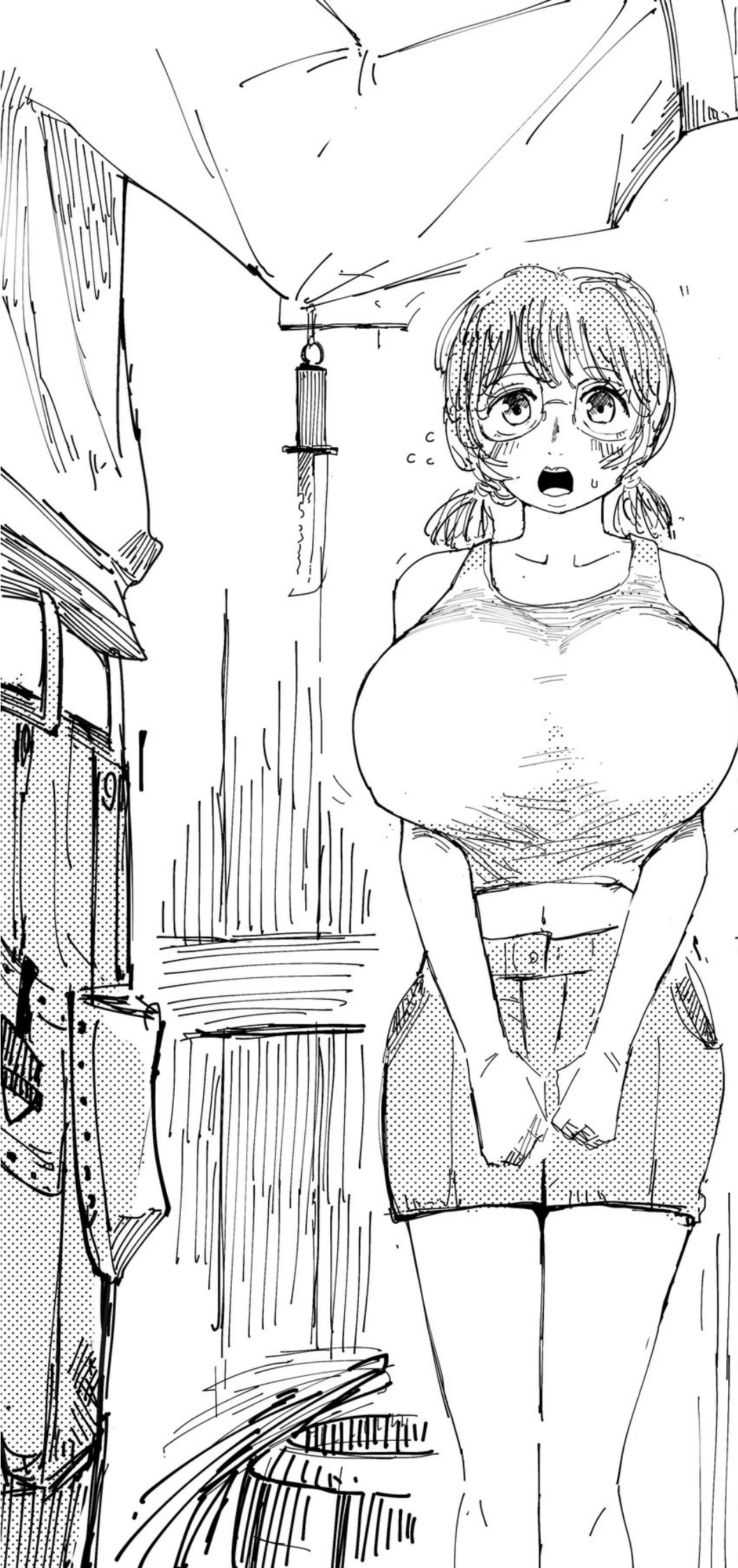
私がおここはどこなのか聞いても  
初めて聞く地名で...

私が目を覚ますまで看病して  
くれたみたいで...申し訳ない  
ただ私の常識と彼の常識が  
かみ合わなすぎるのと、女の子  
一人で出歩くのは危なすぎると  
念を押されたので...この方の  
家に住まわせてもらうことに  
しました。

制服はドロドロだったので  
服を借りました。

サイズが...ちょっと...小さいかも  
でも看病してもらった方に失礼  
だと思ってこのまま着ることに  
しました。

私は...何に巻き込まれたのか...  
わかりません

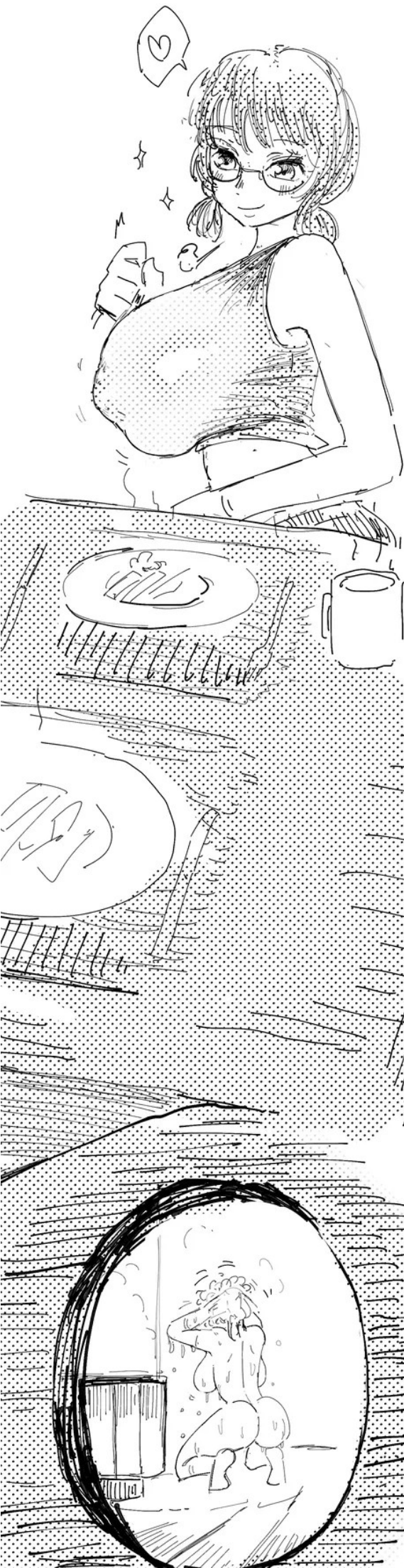


## あれから1ヶ月ほど経ちました

正直知らない男の人と一緒に暮らすのは不安でしたが、とても優しい人で今は楽しいです。

私は昔から勉強しかしたことがなくて...というより親に子供の頃から勉強させられて...友達もいなくて...今は解放された気分です  
モンスター狩りの方はとても良い方で...私は何かできることをしたくてこの土地の料理を覚えています。つまづくことはありますが、勉強よりもとっても楽しいです。

それと...私はたぶん異世界にいると思う。  
この世界では魔法を当然のように皆使っているらしく魔法を見たことがないと言うと、すごく驚かれて...  
お風呂も魔法で沸かしているみたいです  
私も使ってみたい♡ 今度教えてもらいます



# モンスター狩りの方に襲われました。

私が料理を作ってる最中に後ろから抱きついてきました。普段モンスターを生業にする人に抵抗できるわけなく...服を全部脱がされておっぱいを舐めまわされました。ずっと抵抗してもやめてくれません。私の乳首が固くなるまでやらしく舐められました。

私は地面に押し付けられて狩人さんが全裸に...私は初めて男の人のオチンチンを見ました。普段優しい狩人さんは獣のような顔つきにおチンチンは太い血管が浮き出ている脈打ってピクピクしていました。

私はずっと叫んでいても狩人さんは小さい声で「すまない...」と言いながらおチンチンを私の中に入れてきます。私の初めてです。私は狩人さんとエッチしました...

たんこ  
ふんこ



あれから...私たちはエッチをするようになりました...

というのも私が狩人さんに襲われた次の日謝罪をされて...

私の現状を教えてくださいました。私はこの家から動けない状態みたいで今狩人さんは狙っている魔物を討伐するために、この家を拠点にしているみたいで離れられず。でもこの辺りにはゴブリンの縄張りがあるから、私を遭難から助けてくれたあとは仕方なく住まわせてたこのことで...

私は狩人さんにとって異物だったみたいです

私もこんな話信じるはずなのに、ゴブリンにひどいことされるのはなぜか信じてしまいました。

私たちがこの生活をする上での折り合いというか...

私が生きる為には狩人さんが必要みたい...

私も少し反省しています。

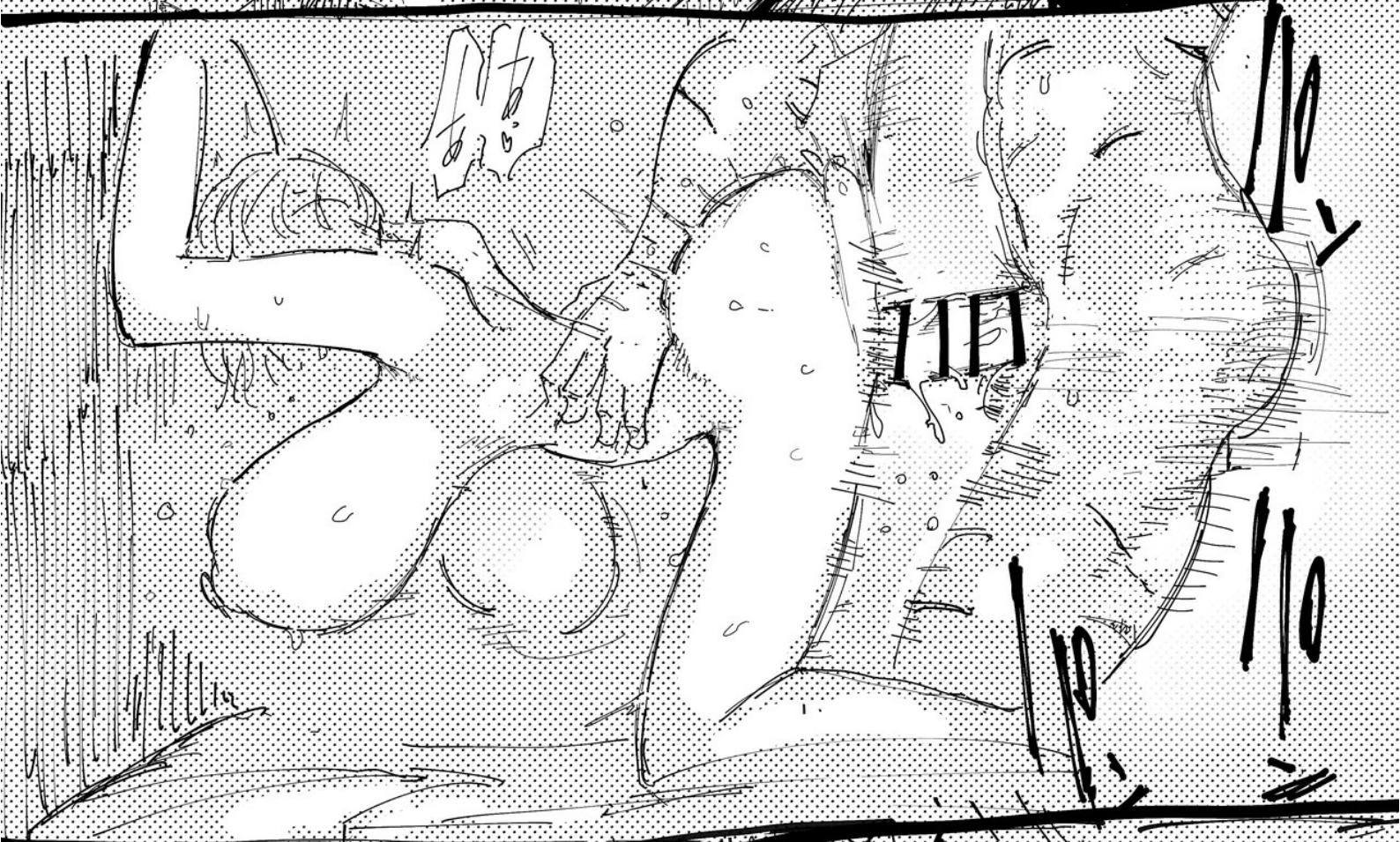
あんな誘惑するような格好で毎日過ごしてたので...

夜になると狩人さんが私のベッドに入ってきます。服の上から太い筋肉質の腕でおっぱいを揉まれますその後服の下に腕を入れて乳首をいやらしく触ってきます私はずっと黙ってますが...だんだん...だんだん.....私の息が荒くなってきます。服をまくり上げられて、傷跡だらけの太い腕でやさしく揉まれます狩人さんはおっぱいが好きみたいです





B. B.  
B. B.



11/19/2000

私はおかしくなった...この娘を毎日犯している。こんなこと私がしてしまうなんて...  
情けない...

この娘がとても魅力的なのは別に、この娘を見ていると狂ってしまう。  
なぜだ!? 普段の私なら絶対しないはずなのに...



年頃の娘にこんな格好させて...腰が止まらない  
すまない...すまない...

私のやるべきことは「ダークエルフ」の討伐...  
弱い魔物や人間を攫って行く習性があり  
近くのゴブリンの縄張りの周辺に罠を仕掛けて機を伺っていたが...  
私はモンスター討伐よりも拠点に籠って娘とずっとセックスしている  
夜もセックス起きたらまたセックス...  
娘が来る以前はほとんど拠点にも戻らなかったが、  
最近では娘の方から誘ってくる

だめだ...このままでは...

クラス「ゴブリンの孕袋」により  
特殊経験値を得た

ミカはモンスター狩りのトムを  
魅了している。

ミカはレベルアップ  
した

ミカはオチンチンを  
離そうとしない



最近はこの娘のことしか考えられない  
この娘が恐ろしくなってきた...

クラス「ゴブリンの孕袋」により  
特殊経験値を得た

ミカはレベルが上がった

ミカは「誘惑」を習得した

スキルツリー「夢の悪魔」が  
身体に刻まれた

ミカ

HP 398

MP 4K



エルフ「…わらわはあの『モンスター狩りのトム』を殺す為に、研鑽を積んできた…が弱すぎる…これが同胞をたくさん殺したあのトムか??」

「…小娘…お前臭いぞ…精液の臭いじゃ…人間とゴブリン…の臭い…それに悪魔の呪いの気配を感じる」

「…悪魔とはあまり関わりたくないな…」

ミカ「ゴブリン…?悪魔??なんのこと？」

エルフ「……解せぬ…この小娘がトムを弱らせた張本人なのか…??」

「わらわと会った事は忘れろ…忘却魔法はわらわにはできない…使えるのは一部のエルフ…それと悪魔が得意とする魔法…」

ミカ「あなた…ダークエルフ？  
あなたが彼を殺したの!？」

エルフ「喋るな小娘…臭い。口からも精液の臭いしかせぬわ、あと勘違いするな」

「エルフは無益な殺生はしない  
仕掛けてきたのはお前ら人間の方だ」

「忘れるな…」



# 1年後

アサミ 「ミカ！もう大丈夫そうだね…あれから2週間ぐらい？」

圭太 「あの時はびっくりしたよ…魔物が出る地域で大怪我して倒れてたんだから」

クロ 「でもそのおかげで、ウチに優秀なヒーラーがいてくれるんだから！…ねっ？ミカちゃん！」

ミカ 「優秀だなんて…」

圭太 「ずっとヒーラー探してたから、すっごく助かってるよミカちゃん!!」

クロ 「お前ミカちゃんがカワイイからってアサミからのりかえんなよ！」

圭太 「っ!?バ、バカなこと言うなよっ！」

アサミ 「……」

圭太はクロに小声でささやく

圭太 「最近ミカちゃんに妬いてるみたいなんだよ…あんまり煽るなよ…」

アサミは男達の方に寄っていき

アサミ 「何喋ってんのっ??」

ミカ 「あっ…あっちで人だからが…」

全員そちらに目を向ける…





エルフ狩り  
…だね

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

…

…

…

アサミ 「ひどい...」

圭太 「エルフのマナポーションは高く売れるから...淫紋を身体中に刻まれて抽出するみたいだけど...」

クロ 「なんでこんな見せしめみたいに...」

圭太 「他のエルフを呼び寄せるみたいだけど...」

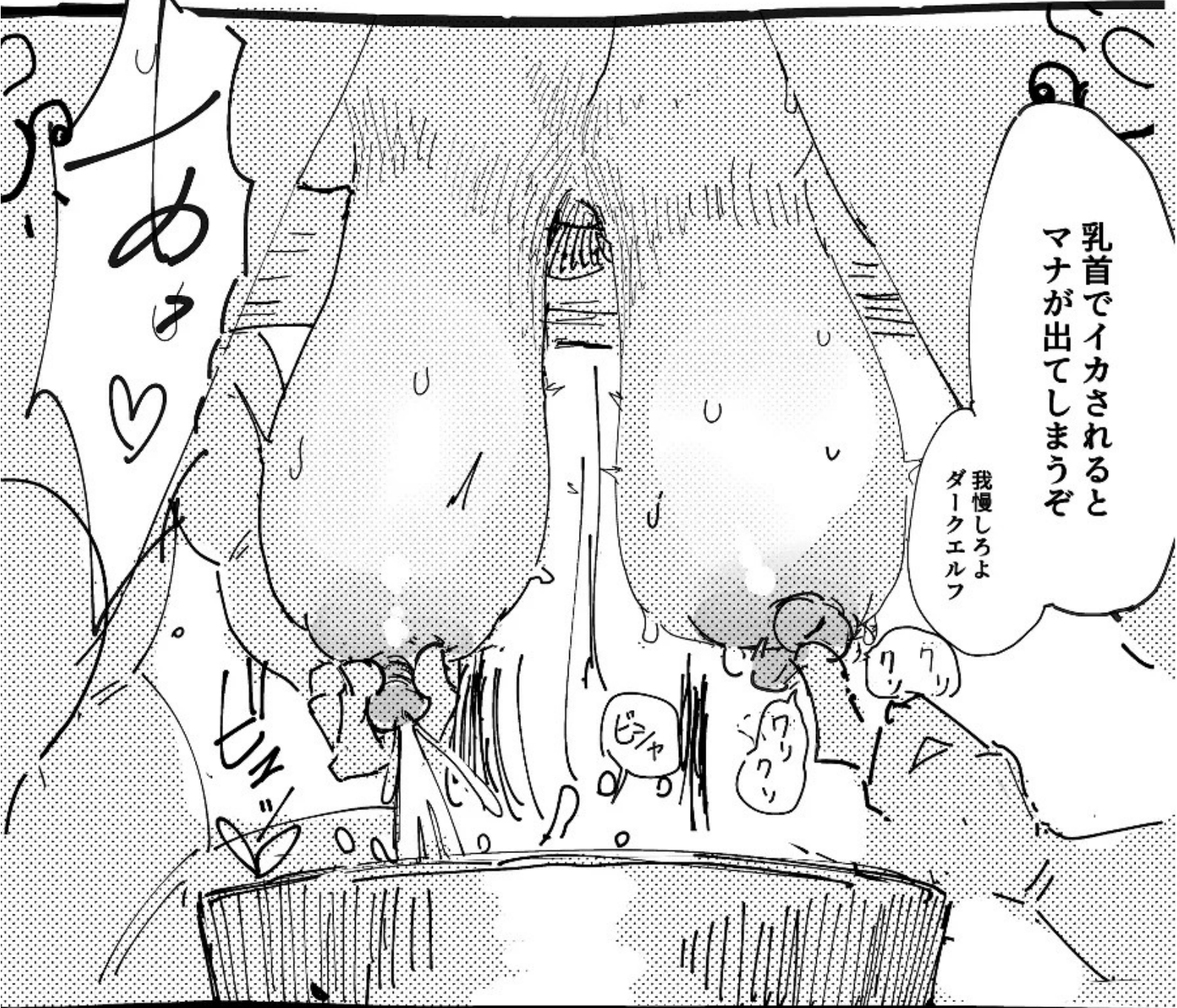
クロ 「エルフ初めて見た...ちょっとかわいそうだな...」

アサミ 「私も初めて...でもエルフって人を攫っていくんでしょ??」

圭太 「そうらしいね...エルフ狩りしてる人にしか聞いた事ないけど」

クロ 「エルフ狩りって一部の過激派でしょ?」

圭太 「まあそうなんだけどね」



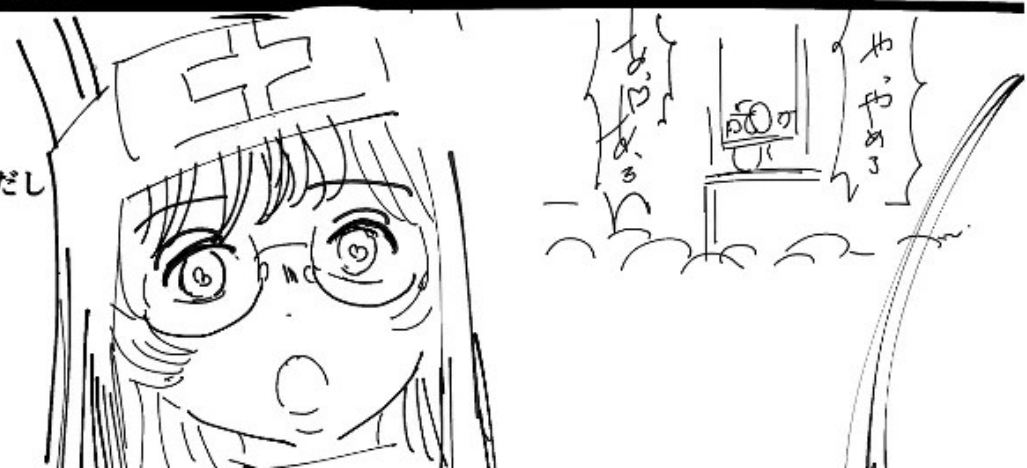
圭太 「実はボクも初めて見た」


クロ 「ミカちゃんも初めて?」

ミカ 「...うん初めて」

「エルフって人を攫う悪い魔物だし 仕方ないよ...」

アサミ 「...うん」






私はあのエルフを知っている  
トムさんを殺したエルフだ...  
許せない...でも羨ましい...  
私はいつの間にかエッチしないと  
死んでしまう身体になっていた  
トムさんは毎日私にオチンチンを  
挿入れてくれた

最高の日々だった  
トムさんが死んでから  
男を漁っている毎日だが  
皆精気を吸われて  
すぐ死んでしまう  
人が死ぬとやっかいなことになる

だから...今回は冒険者を選んでみた  
早く...早くエッチしたい...  
あのエルフみたいに  
喘ぎ声をおもいきり出して  
エッチしたい





アサミ「はあ…はあ…  
圭太…私のこと好き？  
はあ…ねえ？好き？」

圭太「ああ…好きだよ…」

アサミ「キスして…私も好き」

圭太「何回すんだよ…」

アサミ「おねがい…」

圭太「わかったよ」

圭太「はあ…はあ…  
今日どうした？  
ちょっと変だぞ…  
キスそんなに好きだったか？」

アサミ「…」

「私たち…同じ村から冒険者になって  
危険な目にもいっぱいあったけど  
一緒に乗り越えてきたよね？…」

圭太「なんだよ…急にどうしたんだよ…」

アサミ「圭太のことが世界で一番好き」

圭太「…ああ俺もアサミのことが好きだよ」

アサミ「最近怖い…何か嫌な予感がする…」

圭太「心配性なのは昔からだな  
(女心って難しいな)」



どしたの?

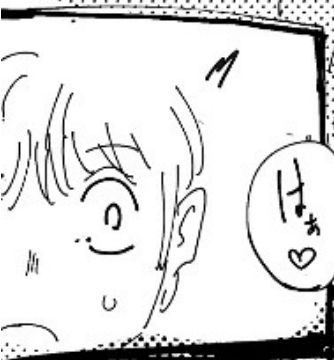
トイレ

ギギ



ミカちゃんの  
服!?

…なんで?



ハハ

ハハ



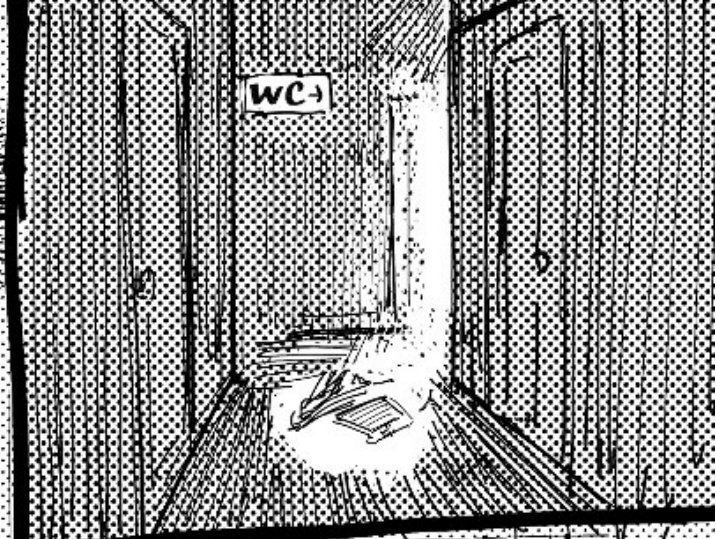
ハハ

ハハ

ハハ

ハハ

ハハ





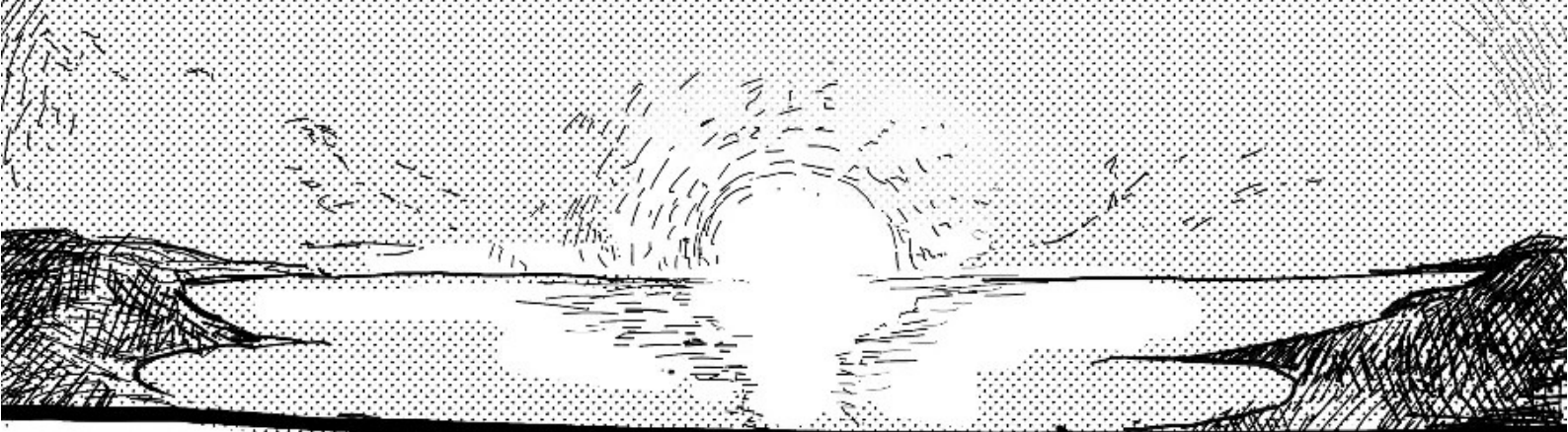
ミカちゃんがトイレでオナニーしていた  
僕はこの場を離れようと思ったけど...  
目が離せなかった...  
普段はおとなしいミカちゃんがこんなに  
乱れてる姿...  
あとミカちゃんっておっぱい大きいとは  
思ってたけど、生で見たらエッチすぎる



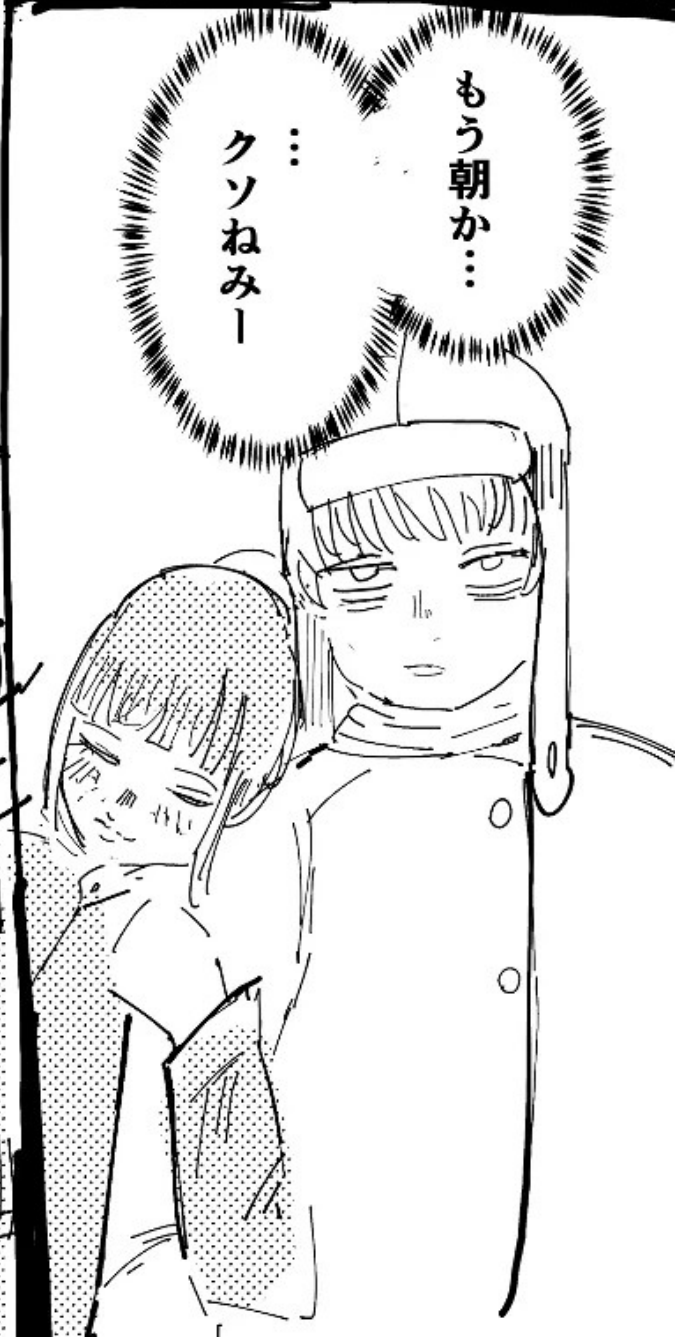
僕は果てて動けないミカちゃんと  
目が合ってしまった  
その場から逃げるようにアサミの  
いる自室へ帰っていった...

.....  
ミカの乱れた姿が頭から離れない...  
勃起がおさまらなかった...

横で寝ているアサミを起きて  
朝までセックスしてしまった



おーい！！  
ケイタ！！  
アサミ！！



もう朝か…

…  
クソねみー



「あ、い、い」

「あ...  
おはよう...」

「あ...」

アサミ「...?元気ないね?大丈夫?」  
ミカ「昨日あまり寝れなかったから...」  
アサミ「...」  
圭太「.....」  
アサミ「...まあ今日はスライム狩りの依頼だし...  
ゆっくりやっついていこ!実は私も寝てないんだ」

スライム狩りをこなし帰路につく...あれからやっと2人で  
話す時間ができる

圭太「...ミ、ミカちゃん...昨日の事...」  
ミカ「...圭太君...今日0時に私の部屋に来て...2人きりになりたい...」  
圭太「...え!?」圭太は困惑した 圭太はミカの胸中を推量しながら  
次から次へと浮かんでくる妄想を否定するも勃起がおさまらなかった

# 0時 ミカの部屋

圭太はアサミの顔を見たかったが  
アサミの姿がみえなかった  
圭太がミカの部屋を訪れる

圭太「...」  
ミカ「...」  
ミカ「圭太君...私のこと変と思った?...」  
圭太「.....そんな事ない.....でも場所は  
気を付けた方が...」  
ミカ「私...圭太君にだけは見られたくなかった...」  
圭太「え?!...」  
ミカ「あの時も...圭太君のこと思いながら...してたの...」

圭太「...」  
ミカ「私...コートの下にも着てないの...」

ミカは服を脱ぎ梁に縄を括って  
自分に手縄をはめる  
ミカ「圭太君...  
私のことめちゃくちゃにして...」



